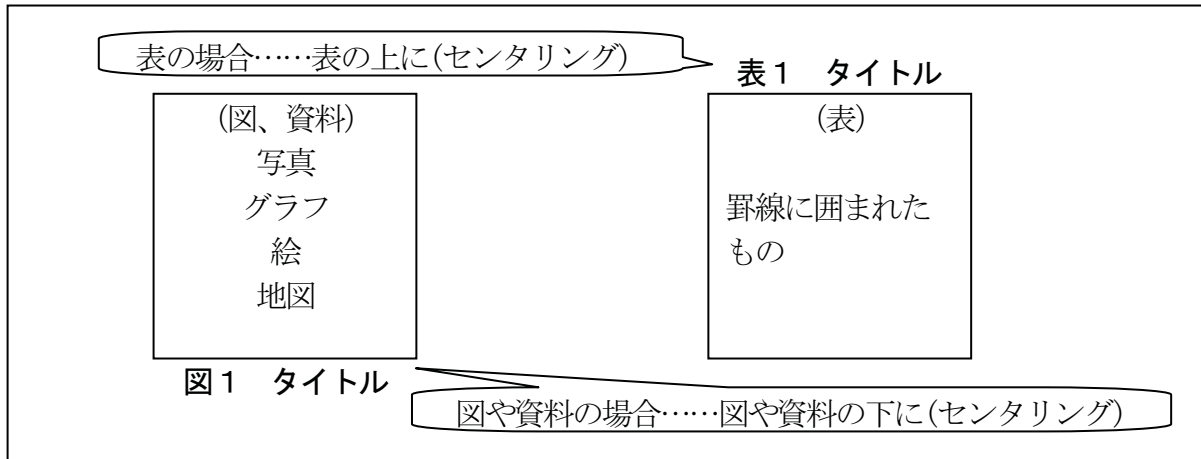


10 データ・資料の扱い方 —研究を確かなものにするために— 資料や参考文献を適切に取り扱う。

1 図や表の取扱い

図や表などの資料のタイトル名はゴシック体とし、次のように掲載することが一般的です。



2 引用文や参考文献の取扱い

本文中で引用した部分と研究全体で参考にした参考文献とに分けて、巻末に示すことが一般的です。

(1) 引用文の用い方

ア 文章中の該当箇所の右肩に⁽¹⁾、⁽²⁾ (上付 1/4 倍) の通し番号で示します。

<例> ……であるが、佐藤は、「〇〇〇……」⁽¹⁾と述べている。

巻末の引用文献欄には、右肩に示した番号と引用した論文や書籍等と対応させます。

イ 引用文には、「」の引用記号を用います。語句を省略する場合は、「……」のように3点リーダーを入れます。

ウ 原文をそのまま抜き書きする直接引用と、原文の内容を的確に要約して書き直す間接引用を使い分けます。

(2) 参考文献等の書き表し方

ア 論文の最後に、著者名、論文題名、書名・雑誌名、出版社、出版年の順で書きます。

イ 引用のページは、ページが単独の場合は「p. 15」、複数ページの場合は「pp. 15-18」のように書きます。

<引用文献の記述例>

⁽¹⁾渡邊 重義、梶山 正明『小学校理科「授業力をみがく」観察・実験ガイドブック』、啓林館、2008、p. 165

ウ 編集者、著作・編集者についても、「〇〇編」「〇〇編著」と正確に示します。

エ 書名・雑誌名は『』、論文は「」で表記します。書籍の中の論文は、次のように「」『』として併記します。

<参考文献の記述例>

濱野 清「中学校社会地理的分野における授業改善—いかにして地域調査の充実を図るか—」『中等教育資料 平成 22 年 10 月号』 ぎょうせい 2010

< 参 考 >

研究論文では、原則として常用漢字表に従って、記述することになりますが、長い文章の場合、二つ以上の表記が可能な語句については、全体を通して表記を統一することが大切です。

次に示す表は、愛媛県教育委員会が行っている「授業のエキスパート養成事業」での表記例です。

(学習指導要領の表記等を参考に平成 24 年度に作成)

| | 読み方 | 表 記 | 備考 (使用例や説明) |
|----|--|--|---|
| ア行 | あいさつ あげる あたる ありがたい ありがとう ある あわせて いう いっしょに いろいろ うえ うかがう うちあわせ うちあわせる おくれ おそれ おもしろい および | 挨拶 挙げる 当たる 有り難い ありがとう 在る 合わせて 併せて 言う いう いっしょに いろいろ 上 伺う うかがう 打合せ 打ち合わせる 後れ 恐れ 面白い 及び | 例を挙げる、全力を挙げる、式を挙げる 指導に当たっては、単位量当たり これは有り難い、有り難い事件 御指導ありがとうございました。 在り方、在るべき姿 AとBを合わせて◇一致させるという意味 併せて支給する◇並行してという意味 ◇接続詞として使う場合はひらがな ～と言える、言うまでもない ～という言葉、～という教え ×一緒に ×色々 身の上、年上、上の段 基礎の上に、その上で◇形式名詞的用法 都合を伺う◇お聞きする、参上する場合 様子をうかがう◇推定して知る、察知する 後れを取る 恐れをなす ※雷雨の <u>おそれ</u> A及びB |
| カ行 | かげつ かしよ かけ かけて かかわる ～がたい きづく くみたて ことばづかい こども ころ | ～か月 ～か所 箇所 掛け かけて 関わる ～難い 気付く 組立て 言葉遣い 子ども 頃 | ○か月、○か年 ○か所◇ケは使わない 誤りの箇所◇単独で用いる場合は漢字 呼び掛け、働き掛け、声掛け、心掛け 時間をかけて指導する、2月から4月にかけて 忘れ難い ◇動詞の場合は、「組み立てる」 ×子供 日頃 |
| サ行 | さまざま さらに | 様々 さらに、 更に | ◇接続詞として使う場合はひらがな ◇副詞として使う場合は漢字「更に工夫する」 |

| | | | |
|----|---|--|--|
| | <p>～しあう</p> <p>したがって</p> <p>じょうず しれない すでに すばらしい すべて すむーず</p> | <p>～し合う</p> <p>したがって ～に従って ～にしたがって</p> <p>上手 しれない 既に すばらしい 全て スムーズ</p> | <p>◇接続詞として使う場合はひらがな 慣例に従う◇動詞として使う場合は漢字 慣れるにしたがって、日がたつにしたがって</p> <p>～かもしれない</p> <p>×素晴らしい</p> <p>×スムーズ</p> |
| 夕行 | <p>たずねる ～たち</p> <p>たとえば たびに たより だれ ちょうど つく・つける</p> <p>つくる</p> <p>～づくり つたえる ていねい てがかり できる てだて どうし とおして とおり とき ともだち ともに</p> | <p>尋ねる、訪ねる 私たち</p> <p>例えば 度に 便り 誰 ちょうど 付く・付ける</p> <p>つく・つける</p> <p>作る 創る ～づくり 伝える 丁寧 手がかり できる 手立て 同士 通して とおり とき 友達 ともに</p> | <p>×私達 ◇「友達」は一つの語と捉えて、漢字で表記</p> <p>～する度に 学校便り</p> <p>×丁度 景品が付く、条件が付く、利子が付く 味方に付く、気付く、位置付け 身に付ける、関連付ける、見付ける 受け付ける、色を付ける、近付く けりがつく、うそをつく、決心がつく 調子づく、思いつく、駆けつける 踏みつける、テレビをつける、見つかる ◇通常は「作る」を使用 新たな文化を創る 新聞づくり、環境づくり、関係づくり</p> <p>話すことができる※家が<u>出来る</u></p> <p>友達同士で 指導を通して そのとおり、次のとおり ～するとき、</p> <p>◇副詞として使う場合はひらがな 「友達とともに学ぶ」 ◇接続助詞として使う場合もひらがな</p> |

| | | | |
|----|---|--|--|
| | とらえる とりあつかい とりくみ とりくむ | 捉える 取扱い 取組 取り組む | 「～するとともに、」 ◇動詞の場合は「取り扱う」 ◇動詞の場合は「～に取り組み、」 |
| ナ行 | ない など なに (なん) ねばり | ない など 何 粘り | 意味がない、行かない 「等」は「とう」としか読まない。 何の遠慮もいらない 粘り強く取り組む |
| ハ行 | はいふ はぐくむ はじめ はなしあい はる ひとり ひとりひとり ひとつ ふまえる ふる ふれる ほか ほしい | 配付 配布 育む はじめ 話合い 貼る 一人 一人一人 一つ 踏まえる 振る 触れる 他 欲しい ～てほしい | プリントを配付◇一人一人、個々に配るとき ちらしを配布◇広く行き渡るように配るとき ～をはじめ、※初めはだれもが失敗する ◇動詞の場合は、「話し合う」 付箋を貼る ※「独り言」「独り占め」「ひとりでに」 ×1つ 手を振る、振り返り 他の人の意見、この他に必要なもの ※歩くよりほかはない お金が欲しい、話し相手が欲しい 見てほしい、電話してほしい |
| マ行 | まじめ また または みいだす みつける みつめる めぐる めざす もつ もと もとづく | 真面目 また 又は 見いだす 見付ける 見つめる めぐる 巡る 目指す 持つ もつ 基 本 元 下 基づく | 接続詞はひらがな A又はB ×見出す ～をめぐって議論する (場所)を巡る 手に持つ、荷物を持つ 勇気をもつ、責任をもつ、気持ちをもつ ◇本来「もつ」は全て「持つ」を使うが、対象 が物質的なもの以外はひらがな 基となる考え、資料を基に 本を正す 元に戻る、元も子もない、元どおり 協力の下、～の指導の下に、校長の方針の下 調査結果に基づき、 |
| ヤ行 | やすい やりとり ゆえに よい | やすい やり取り ゆえに よい | ～しやすい (×～し易い) よい文章、心地よい |
| ワ行 | わかる わたる | 分かる 渡る わたる | 川を渡る、アメリカに渡る、渡り鳥 細部にわたって点検する、3時間にわたる |